



上三輪地区自主防災組織会長  
(上三輪連合町内会長)

土井 隆 さん (三輪)

今年は私たちにとって自主防災組織元年です。自主防災組織の存在や自主防災への意識を町内会員に浸透させていくことが、まず大切だと考えています。そして、組織の活動が会員にとって重荷にならないようにもしたいですね。みんなで知恵を出し合い試行錯誤しながら、時間をかけてよりよい組織になるよう努めたいと思います。

シヨップの題材として開発されたDVD「震災の映像から学ぶ自主防災組織」を参考にしたり、市の防災担当の総務課と話し合ったりしながら、協議を重ねたそうです。そして、上三輪地区らしさを大切にしたい組織や活動内容をまとめ、発足に近づきました。

「始めたばかり、勉強しながら、みんなで工夫してやっていきます」と、副会長の堀良二さん(真壁)は話してくれました。6月1日現在、世帯数で見ると総社市の自主防災組織の組織率は22.8%。まだの地区の皆さん組織づくりにご協力をお願いします。

**開園式**  
7/13(土)  
9:30~

**とぎわ公園 TOKIWA PARK**

**どなたでも参加できます!**

**防災体験**

岡山県の防災ヘリコプターの飛行をはじめ、地震や煙の体験コーナー、自衛隊による防災機器の展示などを行います。雨の場合、内容変更あり。

※開園式当日、常盤公園周辺の交通混雑やヘリコプターの飛行音などで、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ 都市計画課区画整理係  
(☎92-8303)



常盤公園ワークショップの  
企画・実施者  
岡山県立大学デザイン学部  
熊澤貴之 講師

常盤公園は、さまざまな人がいっしょになり、連携しながらできあがった公園だと思います。公園作りが、希薄化している地域のきずなをもう一回再構築させ、強めていくきっかけになればうれしいです。地域のきずなが強いと、自主防災活動や治安などで良い面がいろいろ出てきますから、どんどん高めていってほしいと思います。



完成間近な常盤公園の全景 (6月上旬撮影)

上三輪地区自主防災組織の班長会議。活動内容について話し合われた



上三輪に自主防災組織が誕生

常盤公園をよりどころに  
自主防災組織が発足

とぎわ公園

上三輪連合町内会では、平成17年ごろから自主防災組織の立ち上げを考えていました。「総社は災害も少なくおだやかだからと、ずるずるとなっています。上三輪地区では、平成17年ごろから自主防災組織の立ち上げを考えていました。「総社は災害も少なくおだやかだからと、ずるずるとなっています。上三輪地区では、平成17年ごろから自主防災組織の立ち上げを考えていました。」

ほかの自主防災組織同様、上三輪地区も町内会を母体にして組織化を図りました。昨年3月、町内会の役員会で立ち上げが提案され、ワーキンググループを設置。組織づくりの検討を進めました。常盤公園を作るワーク

8つの防災機能を備える公園



6 かまどスツール

いすの部分を外すと炊き出し用のかまどになる。座面はテーブルになる。3基設置。



7 かまどベンチ

ベンチの部分を外すと、炊き出し用のかまどになる。2基設置。



8 耐震性貯水槽

グラウンドの東の端に埋設されており、50Lの飲料水を貯水できる。これは5000人の3日分の量。



3 防災パーゴラ

建物の骨格を利用し、テントを掛けると雨などをしのげ、避難場所の本部などに活用できる。パーゴラ内のベンチの台座は資機材の収納庫になっている。



4 防災あずまや

緊急時には側面にテントを張り、部屋として活用できる。



5 太陽光発電式LED灯

太陽光発電でLED灯を点灯させる。10基設置。



1 非常用便槽

非常用便槽のマンホールのふたを外し、そこへ非常用トイレを組み立てれば、仮設トイレ10基を設けられる。和式、洋式、多目的の3種類のタイプを用意。



2 備蓄倉庫

床面積約150㎡。カンパンや保存食をはじめ、ボール、チェンソー、ジャッキなどの緊急時に必要な資機材を収納できる。